島根県水産試験場　漁海況情報　平成 12 年 3 月 21 日発行

トビウオ通信　(3 月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/　(TEL 0855-22-1720)

《　平成 11 年イカ釣り漁業の動向　》

今月は島根県西部の沿岸一本釣りによるイカ類の漁獲動向と日本海のスルメイカの資源動向について報告します。

●沿岸一本釣り

平成 11 年の島根県西部沿岸域を主漁場としている小型イカ釣り船によるスルメイカ・ケンサキイカ(シロイカ)の漁獲量と CPUE(1 隻 1 航海当たりの漁獲量)および漁獲金額と単価の経年変動を図 1～4 に示します。

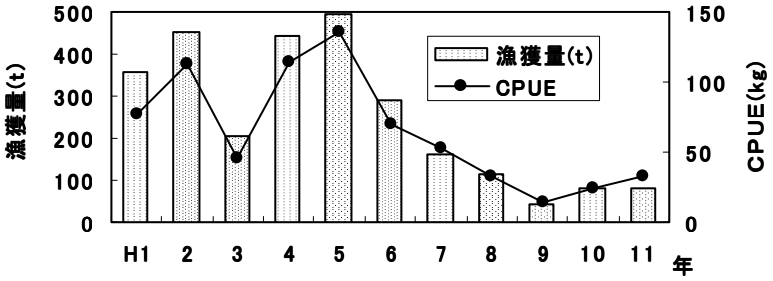


図1　浜田地元小型船によるスルメイカ漁獲量およびCPUE

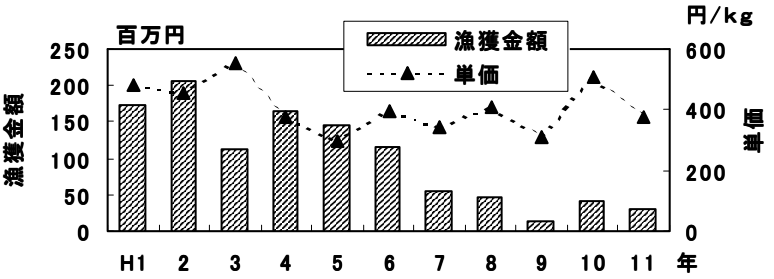


図2　浜田地元小型船によるスルメイカ漁獲金額および単価

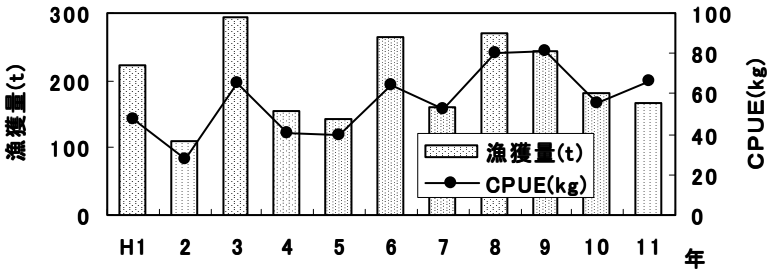


図3　浜田地元船によるケンサキイカ漁獲量およびCPUE

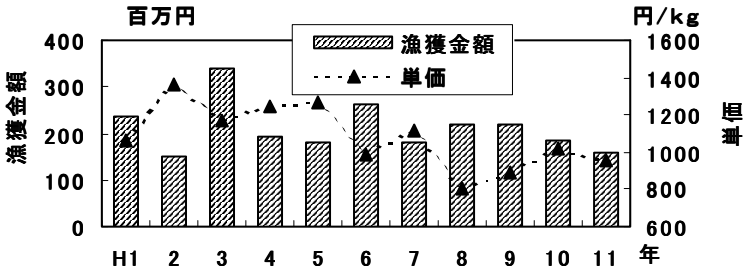


図4　浜田地元小型船によるケンサキイカ漁獲金額および単価

スルメイカ依然として低調

平成 11 年のスルメイカの漁獲量は 83.3 トンで、前年(80.3 トン)の 104%、平年(264.5 トン)の 31%と低調に推移しました。CPUE は 33.5kg で、前年(24.5kg)の 137%、平年(70.4kg)の 48%と前年を上回ったものの、平年に比べ低調に推移しました（図 1)。

漁獲金額は 3,131 万円で、前年(4,069 万円)の 77%、平年(1 億 739 万円)の 29%と低調に推移しました。単価は 376 円/kg で、前年(507 円/kg)の 74%、平年(412 円/kg)の 91%とほぼ平年並みでした（図 2)。

近年、スルメイカの漁獲量、漁獲金額ともに平成 2～5 年をピークに減少傾向にあり、最近数年は低水準で横ばいに推移しています。また、単価は若干の変動はあるもののほぼ 400 円/kg で推移しています。

ケンサキイカはやや減少傾向か？

平成 11 年のケンサキイカの漁獲量は 165.8 トンと、前年（181.0 トン)の 92%、平年(205.0 トン)の 81%とやや低調に推移しました。CPUE は 66.5kg で、前年(55.2kg)の 120%、平年(54.5kg)の 122%と前年および平年をやや上回りました（図 3)。

漁獲金額は 1 億 5,897 万円で、前年(1 億 8,471 万円)の 86%、平年(2 億 1,679 万円)の 73%とやや低調に推移しました。単価は 959 円/kg で、前年(1,021 円/kg)の 94%、平年(1,092 円/kg)の 88%とほぼ平年並みでした（図 4)。

ケンサキイカの漁獲量は変動が大きく、明確な傾向は見られませんが、平成 8 年以降では 3 年連続で減少しており、今後の動向が注目されます。漁獲金額も漁獲量同様バラツキが大きいものの、やや減少傾向にあります。

また、単価は平成 2～5 年では 1,200 円/kg 前後でしたがその後低下し、現在では 900 円/kg 前後で推移しています。

●日本海のスルメイカ資源の動向

日本海のスルメイカ資源は良好！

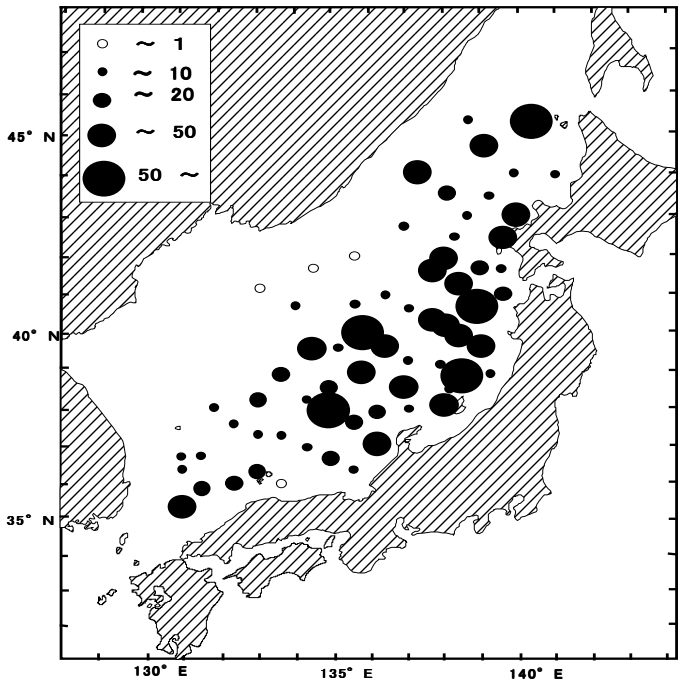


図 5　スルメイカ漁場一斉調査による CPUE
（釣り機 1 台 1 時間当たり漁獲尾数）の分布

図 5 に日本海区水産研究所(日水研)と日本海沿岸の道府県水産試験場が、平成 11 年 6 月下旬から 7 月上旬にかけて行った漁場一斉調査の結果を示します。図は日本海全域の CPUE(釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数)の分布状況を表しています。CPUE はスルメイカの分布密度を示す数値ですが、全調査点の平均値は 18.5 尾と、前年(8.6 尾)および平成 7～10 年の平均値(15.2 尾)を大きく上回っています。分布域は大和堆、佐渡沖、秋田沖を中心としています。また、平成 11 年 10 月に日水研が山陰沿岸から九州沿岸にかけて行ったスルメイカ稚仔の分布調査の結果(図 6)によると、スルメイカ稚仔の平均採集個体数は 1.6 で、やや低調だった前年(0.9)を大きく上回り、平成元年以降スルメイカの資源水準が高く推移していることが分かります。これらの結果から日本海のスルメイカ資源は比較的良好な状態であると考えられます。

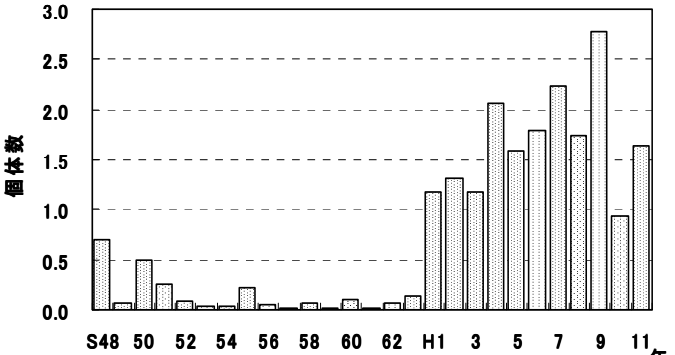


図6　スルメイカ稚仔平均採集個体数

日本海沿岸の漁獲動向

日本海沿岸の道府県における平成 11 年のスルメイカの漁獲量の前年比、平年比(過去 5 ヶ年平均)を図 7 に示します。漁獲量は各道府県が集計したもので、鳥取、島根、山口の 3 県は主要港の、その他の道府県は各道府県で水揚げされた漁獲量を用いています。

日本海沿岸で漁獲されたスルメイカは 97,383 トンで、前年(77,110 トン)の 126%、平年(100,485 トン)の 97%と、前年を大きく上回り、ほぼ平年並みの漁獲がありました。しかしながら、地域別に見ると日本海北部海域では前年,平年を上回った道府県が多く、好調な漁模様であったのに対し、日本海西部海域では前年は上回ったものの平年を下回っている県が多く、低調に推移していることが分かります。このように日本海の資源状態は良好で、日本海北部海域では比較的好漁であるにもかかわらず山陰沿岸海域での漁獲は低水準となっています。その理由の一つとして、山陰沿岸海域の環境がスルメイカの来遊条件に適さなかったことなどが挙げられます。

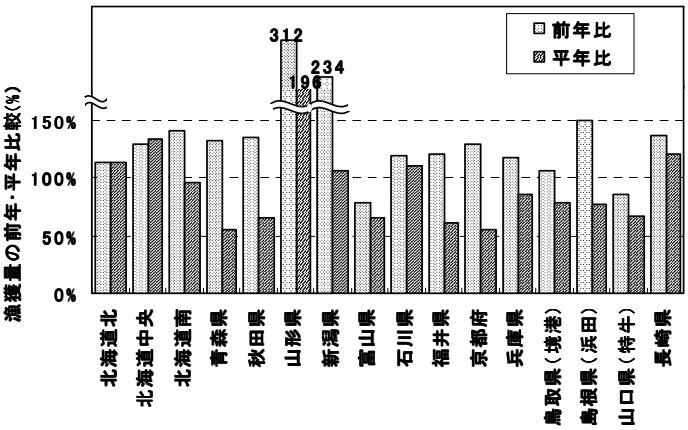
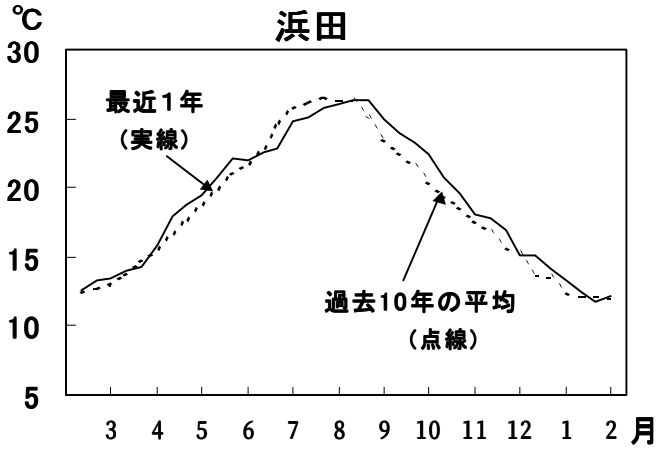


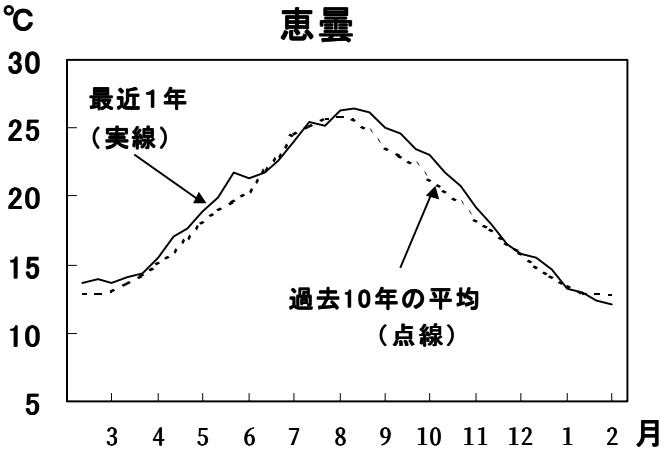
図7　平成11年の日本海の漁獲量の前年比および平年比

今後の山陰沿岸海域での漁模様

日本海の資源水準は高いものの、近年の傾向からすると山陰沿岸海域はスルメイカの漁場が形成されにくい環境にあると考えられます。しかしながら、環境が好転すれば、資源状態はよいので好漁になる可能性はあります。

《　2月の海況　》





定地水温

2月	月平均	平年差	評　価
浜田	12.1℃	+0.0℃	平年並み
恵曇	12.5℃	−0.4℃	やや低め

2月の月平均水温は1月に比べ浜田で2.1℃、恵曇で2.0℃下降し、浜田では「平年並み」、恵曇では平年に比べ「やや低め」の水温経過となりました。

また、島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果（3月上旬）によりますと、冷水域が隠岐諸島の西北西30マイルおよび日御碕北西70マイルに張り出しています。また、隠岐諸島の北北西120マイルおよび北方160マイルにも冷水域が見られ、狭い海域に複数の冷水域が発達した非常に複雑な水塊配置となっています。

水温は冷水域の周辺では平年より「かなり低め」である以外は、上･中･下層の各層とも、鳥取県海域で「平年並み」、島根･山口県海域では平年より「やや高め」となっていました。

《　2月の漁況　》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は1,162トンで、前年の35%、平年の24%と、極めて低調に推移しました。水揚金額は前年の76%とこちらもやや低調に推移しました。漁獲の主体はマサバ、カタクチイワシ、マアジでした。また、恵曇ではカタクチイワシを主体に863トンの漁獲がありましたが、前年の70%にとどまりました。浦郷でもカタクチイワシ主体に1,528トンの漁獲があり、前年の71%の漁獲となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚する地元小型イカ釣り船によるイカ類の漁獲量は、ヤリイカを中心に0.6トンあり、前年の 28%と非常に低調に推移しました。浜田市漁協以外の小型イカ釣り船では、スルメイカを中心に126.4トンの漁獲があり、前年の59%と低調に推移しました。また、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量はスルメイカを中心に45.9トンで、前年の136%とやや好調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は394トン､水揚金額は1億5,338万円でした｡また1統当たり漁獲量は66トン(平年比：9%増)、水揚金額は 2,556 万円(平年比：2%増)で、量・金額とも平年をわずかに上回っています。ソウハチは平年の1.9倍の漁獲があり、またはアカムツの小型魚（メキン）がまとまって漁獲され、平年の8.2倍の漁獲がありました。

恵曇港の総漁獲量は202トン(平年比：29%増)、水揚金額は1億1,058万円(平年比：4%増)で、量・

金額とも平年を上回っています。アカガレイ主体であり、全漁獲物の7割を占めています。盛漁期を迎えたアカガレイは好調に推移し、平年の1.8倍の水揚がありました。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における水揚げ状況は、出漁日数が前年より 9%減少したため総漁獲量（215 トン）は前年をわずかに下回っていますが、水揚金額（1億1,5705万円）は単価の高いヒラメ、ケンサキイカが好調で前年の9%増となっています。

大田市漁協では出漁日数が前年より27%減少したため総漁獲量は98トン(前年比：72%)、水揚金額は5,226万円(前年比：82%)で、量・金額とも前年を下回っています。漁獲の主体はソウハチ(前年比：72%)、ニギス(前年比：45%)ですが、前年を下回っています。

【定置網漁業】

県東部および隠岐地区ではスルメイカの漁獲量が急増し、全漁獲量の 75～98%を占めています。特に隠岐地区では漁獲量全体が前月の10倍以上となっています。隠岐地区では昨年もスルメイカが今年とほぼ同じようにまとまって漁獲されており、それが3月まで続きました。県西部ではブリが比較的まとまって漁獲されていますが、漁獲されているのは体重800ｇ程度の1歳魚で、いわゆる寒ブリと呼ばれる大型の成魚の漁獲は皆無です。

【釣・縄】

前月に引き続きブリ類の好調により、沿岸の釣は前年を上回りやや好調な漁模様でした。浜田はブリ類、アマダイ、マダイを主体に漁獲量10.8ﾄﾝ、水揚げ金額1,294万円で量･金額ともに前年を上回り、ほぼ平年並みの漁となっています。五十猛はブリ類・カサゴ・メバル類主体で、漁獲量7.9ﾄﾝ、水揚げ金額629万円と漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。

漁獲統計　　**平成12年2月1日～29日**

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	31	マサバ・カタクチイワシ・マアジ	37.5ﾄﾝ	1,162ﾄﾝ
	恵曇	33	カタクチイワシ	26.2ﾄﾝ	863ﾄﾝ
	浦郷	34	カタクチイワシ	44.9ﾄﾝ	1,527ﾄﾝ
イカ釣り	浜田(沖合)	158	スルメイカ	800.3Kg	126.4ﾄﾝ
	浜田(沿岸)	2	ヤリイカ	279.3Kg	0.6ﾄﾝ
	西郷	214	スルメイカ	214.6kg	45.9ﾄﾝ
沖合底びき網	浜田	28	ソウハチ	14.1ﾄﾝ	393.6ﾄﾝ
	恵曇	33	アカガレイ	6.1ﾄﾝ	201.9ﾄﾝ
小型底びき網	和江	349	ソウハチ・アンコウ・ケンサキイカ	617kg	215.2ﾄﾝ
	大田市	154	ソウハチ・ニギス	638kg	98.3ﾄﾝ
定置網	浜田	16	ブリ・マアジ・ヤリイカ	611kg	9.8ﾄﾝ
	恵曇	24	スルメイカ	408kg	4.9ﾄﾝ
	浦郷	12	スルメイカ	4,939kg	118.5ﾄﾝ
釣・縄	浜田	671	ブリ類・アマダイ・マダイ	16.1kg	10.8ﾄﾝ
	五十猛	318	ブリ類・カサゴ・メバル類	24.8kg	7.9ﾄﾝ

※１隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量／延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。